

「那須烏山市の^{まちづくり}地域振興を考える」意見交換会における主な意見について

主 催：那須烏山市観光協会、那須烏山商工会

日 時：令和6年6月20日（木）午後6時30分～8時00分

場 所：那須烏山市金井2-5-11 那須烏山商工会本所 2階研修室

テーマ：JR烏山線の存続と中心市街地の活性化に向けて

ファシリテーター：

那須烏山商工会青年部

平野 達朗（なすから子結び団代表）

パネラー：

那須烏山市観光協会

会長 島崎 健一

那須烏山商工会

会長 中村 恵之

NPO法人クロスアクション

代表 高橋 誠一

なすからのまちづくりを考える若手有志の会 山村 浩之

那須烏山市総合政策課 公共施設再編担当課長 関 雅人

主な意見の内容

【観光協会 島崎会長】

- ◇観光協会では、コロナ禍の間、龍門カフェやいちごの学校のオープン、メグロのイベントの立ち上げなど、新規性の高い取組を行ってきた。
- ◇これからは、観光資源を磨き上げ、資源を生かした誘客と賑わい創出に取り組み、人が呼べる観光・地域を作っていかなければならない。
- ◇JR烏山線は、観光的に非常に大きな資源。JR烏山線に乗る理由を作っていきたい。
- ◇JR宇都宮駅の日光線のホームには外国人が溢れかえっている。その100分の1でもJR烏山線に乗せることができれば、相当な賑わいが創出できる。そのためには、インバウンドに本気で取り組まなければならない。
- ◇宇都宮を拠点として益子町や茂木町に直接行くのは不便。そこで、JR烏山線を利用してまず那須烏山市に入ってきてもらおうという考えで、県東地域連携に向けた検討を進めている。
- ◇JR烏山駅前に観光案内所がない。駅前整備の中で物販もできる観光案内所を設置できると良い。

【商工会 中村会長】

- ◇まちづくりは会社の経営と似た部分がある。会社には様々な役割の人がいて、それらの集

合体として会社全体が動く。まちづくりに関しても、ハードとソフトどちらかでは成功せず、ハードとソフトを連動させ、一人一人が熱量を持って取り組むことでまちを変えていくことができる。

- ◇自社の事例だが、廃校となった旧興野小を買い取り、広い敷地があることや、平日しか会社の事業に使わないことから、交流スペースを作った。私の高校生の娘が(株)Growを立ち上げ、AKV（旧興野小）を拠点にイベントを行うなど、まちづくり活動を行っている。
- ◇那須烏山市には、ソフト面で活躍できるプレイヤーは多くいるが、ハード面で活躍できる場がない。その人たちのエネルギーを受け止め、活躍の場となれる公共施設の整備を行政にお願いしたい。
- ◇JR烏山駅前に市庁舎ができれば、コンビニやレンタカー事業など民間活力を誘導できる可能性がある。
- ◇JR烏山駅東側の太陽光発電所となっている場所に市民ホールといった施設を整備し、国道294号線沿いに道に駅を整備するのも良い。
- ◇本市にあって他にないのはJR烏山線であり、本市の強みでもある。例えば、JR烏山駅前は観光、JR大金駅前はスポーツで活性化するなど、こういうまちづくりをやっていききたいというグランドデザインを行政側から示してほしい。

【クロスアクション 高橋代表】

- ◇クロスアクションは、市内のいろいろな場所を活用して、人の交流を生みながらまちを活性化させようと活動している。
- ◇宇都宮大学の地域プロジェクト演習を5年間請け負い、JR烏山駅前の活性化のため、公共施設を活用した活性化の可能性を検討し、山あげ会館に「山あげコモンズ」というコミュニティスペースを作った。
- ◇中村会長からAKVの活用について相談をいただいたり、(株)Growの活動に協力させていただいた。今は那須烏山市に「AKV」という1つのブランドができたと感じている。
- ◇JR烏山駅前に市庁舎ができた場合、稼働しない土日にどう活用していくかを考える必要がある。この点、AKVが非常に参考になる。AKVは、平日は会社として稼働し、土日は地域の人たちのコミュニティスペースとして活用している。
- ◇JR烏山駅前について、地域内外の交流をどのようにデザインしていくかを考える必要がある。

【なすからのまちづくりを考える若手有志の会 山村氏】

- ◇福祉の立場で那須烏山市庁舎整備検討委員会に委員として参加している。何とかこの市を良くしたいとの思いから、検討委員会の若手委員6名でなすからのまちづくりを考える若手有志の会を独自に結成し、若手世代を中心としたまちづくりに関する市民のリアルな声が見える化し、まちのグランドデザインづくりの検討に役立てるため、昨年12月

にアンケート調査を行った。

- ◇不足していると感じる公共施設・場所として、「公園」、「ホール」、「子どもの遊び場」、「スポーツ施設」といった回答が多かった。また、我がまちへの誇り、地域での助け合いや交流といった「市民力」に関する意見が多く寄せられた。
- ◇人と人とのつながりを大切にして、老若男女がふれ合える機会や場所があることが重要。ハードとソフトが連動する仕掛けが必要である。
- ◇「人と人が出会って交流してつながるまち」がキーワードになる。本市は市民が活躍する場が圧倒的に不足している。市民が交流し、活躍できる場となるハードの整備が必要だ。

【質疑応答】

(参加者)

- ◇人口減少が早まっており、高齢者の割合も年々高まっていく。このことに対するビジョンは何かあるのか。

(関公共施設再編担当課長)

- ◇人口が減っていることは事実。人口減少を抑制するためには、転出超過を最小限に抑えなければならない。そのためには、市民の満足度・幸福度を高める施策を展開する必要がある。
- ◇本市の公共施設はいずれも老朽化が著しく、機能も不十分で、ユニバーサルデザインへの配慮もなされていない。活発に活動している団体を支える拠点もない。他市町と遜色ないレベルの公共施設は整備していく必要がある。そのために、従来の前例踏襲型の市政運営ではなく、一步踏み出した未来志向型の市営運営に転換を図り、前向きに施策を展開していく。
- ◇JR烏山線の存続問題がクローズアップされている。廃線の打診をされることがないように努めなければならないが、仮にそういった話があった際には、あらゆる手段を総動員するなど対応していきたい。
- ◇JR烏山駅前の再生については、人口減少に歯止めをかける大きな施策の1つだと考えている。

(参加者)

- ◇JR烏山線を交流の場としてはどうか。近隣の市町から人が来られるよう、高齢者の足としてもライドシェア事業を考えてはどうか。

(クロスアクション 高橋代表)

- ◇JR烏山線を交流の場とするには、高根沢町との連携が必要。高根沢町観光協会から、宝積寺駅125周年記念イベントのお誘いが来ており、宝積寺会場と烏山会場をJR烏山線でつなぐ取組ができればと考えている。行政と行政のつながりより、民間同士で連携することで行政の支援を受けられるようにするのが良いのではないかと考えている。

(参加者)

- ◇JR烏山線やアキュムについて、魅力や必要性を感じている人がどれくらいいるかが大切。若い人に聞くと「不便」「遅い」などマイナスばかり。JR烏山駅前が活性化しても車で来る人が増えるだけではないか。JR烏山線がなくなったら通学が不便といった考え方ではなく、もっと違う角度で考える必要がある。もっと通勤で使うなどしないと、現実的には厳しい。

(観光協会 島崎会長)

- ◇車ではなく、JR烏山線に乗る理由を作っていく必要がある。単発のイベントも大切だが、乗る理由を考え、策を生み出していきたい。

(参加者)

- ◇JR宝積寺駅では毎週木曜日にイベントを行っているが、JR烏山駅とJR大金駅でも同時開催して活性化を図れないか。イメージとしては、JR黒磯駅前の空き店舗を利用したカフェのようなイメージ。
- ◇市庁舎はJR烏山駅前に整備するのが良い。車を運転できない高齢者でもJR烏山線を利用して来ることができる。駅まで遠い方については、タクシー代を市で負担するといった検討をしてほしい。

(クロスアクション 高橋代表)

- ◇JR黒磯駅前は一度は落ちるところまで落ちたが、駅前に立派な図書館を整備することで場所の価値を上げ、周囲に魅力ある店を誘導していった。地域の内外から集客できる店が中心市街地にたくさんできれば、自然と人が集まり、活性化できる。公共施設だけでは収益は上がらないので、そういうストーリーを考えていく必要がある。
- ◇JR烏山線について、具体的にどれくらい赤字を減らせば存続させられるのか、あるいは本気で黒字化を目指すのか、目標設定が必要。そうしないと市民の感情も盛り上がらない。

(関公共施設再編担当課長)

- ◇JR烏山駅前に庁舎ができればいいという意見もあったが、現在、庁舎整備検討委員会において、新庁舎の候補地の選定作業を進めており、その動向を注視している。

【まとめ】

(関公共施設再編担当課長)

- ◇参加者のご意見を総括すると、JR烏山線を存続させる1つの手法として、JR烏山駅前に何らかの公共施設を整備することで賑わいの創出を図ることも大切だと受け止めた。
- ◇中村会長からグランドデザインを示してほしいとの話があったが、公共施設をどのように再編・再配置すれば利便性の高い市政運営ができるかについて現在検討している。10年後、20年後の将来を見据えて、市民が夢を見られるようなビジョンを作っていかなければ

ならない。

◇那須烏山市が持続可能なまちとして残っていくためには何が必要かを一緒に考えていただき、力をお貸しいただきたい。そうすればきっと前に進めるものと考えている。

(商工会 中村会長)

◇今頑張らなければ、まちが疲弊していってしまう。行政にはスピード感を持って取り組み、市議会とも連携を図り、まちのためになる一歩を踏み出してほしい。